

(307) 620.186.5: 621.785.3: 669.046.558.3: 546.623'173: 548.5

一方向性珪素鋼のA₂Nの析出と2次再結晶粒成長に及ぼす焼鈍雰囲気の影響
 — A₂Nをインヒビターとした一方向性珪素鋼の2次再結晶挙動について(第1報) —

新日本製鐵 生産技術研究所 原勢二郎, 佐藤 駿
 高嶋邦秀

1. 緒 言

A₂Nをインヒビターとした一方向性珪素鋼で集積度の高いGoss組織を得る条件として, 一段強冷延を行うこと, 300Å以下のA₂Nが分散していることが必要と言われているが, 2次再結晶粒成長挙動と焼鈍雰囲気, A₂Nの関係については必ずしも明確とは言えない。これらの関係について新しい知見を得たので報告する。

2. 実験方法

A₂の含有量の異なる厚み0.3%の冷延板(表1)を850℃×2分30秒, H₂-H₂OでD.P. が夫々69℃, 50℃ < -20℃の各雰囲気で行い, 975℃, 1000℃の各温度で H₂-H₂O, 75% H₂, 50% H₂-N₂-H₂Oの各分圧で(残りN₂-H₂O) D.P. < -20℃及び75%^{H₂}N₂-H₂O D.P. 10℃の雰囲気で行い, 結晶粒成長状況とA₂Nの析出状態を調査した。

3. 実験結果

- 結果の1例を表2, 写真1, 2に示した。主な結果を要約すると
- (1) 1次焼鈍後は, 結晶粒度, A₂Nは板厚方向ではほぼ均一だが, 2次焼鈍過程で差異を生じた。即ちH₂分圧が高い程A₂Nが表面層から消失し, 表面層の結晶粒が成長し, Nas A₂Nで40~50 ppmで2次再結晶した。Nas A₂Nが30 ppm以下ではMatrixも粒成長し, 2次再結晶しなかった。
 - (2) 2次再結晶過程で増加したA₂Nは主に針状であった。
 - (3) 析出A₂Nの量は雰囲気のN₂分圧と鋼板のA₂量に比例して増加する傾向を示したが, 1次焼鈍をDry雰囲気で行った場合と, 2次焼鈍をD.P. 10℃で行った場合は, 傾向が異なった。

表1 供試材の成分(wt%)

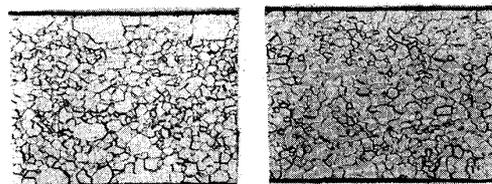
材料符号	Si	Mn	S	sol A ₂	Nas A ₂ N	Total N
I	2.94	0.07	0.027	0.022	0.0056	0.0060
II	2.94	0.07	0.021	0.027	0.0057	0.0061

表2 焼鈍雰囲気中D.P.及び析出A₂Nと2次再結晶状況(975℃×5hr)

材料 1次 2次 焼鈍	I			II		
	69℃	50℃	<-20℃	69℃	50℃	<-20℃
100% H ₂ <-20℃	40	42	22	52	57	30
	○	○	××	○	×	××
75% H ₂ <-20℃	74	64	59	85	86	68
	×	×	×	×	×	×
50% H ₂ <-20℃	78	74	59	100	89	79
	×	×	×	×	×	×
75% H ₂ 10℃	43	40	41	64	48	49
	○	○	○	×	○	○

○ 2次再結晶有
 × 粒成長せず
 ×× 正常粒成長
 数字は Nas A₂N (ppm)

2次位置 雰囲気	板厚中心層	板表面より20μm入った所
50% H ₂ D.P. <-20℃		
100% H ₂ D.P. <-20℃		



75% H₂ < D.P. -20℃ 50% H₂ < D.P. -20℃
 材料 II, 1次焼鈍; 100% H₂ 50℃

写真2 2次焼鈍後の断面組織の1例

材料 II, (1次焼鈍 H₂-H₂O D.P. 69℃)

写真1 A₂Nの析出分散状況の1例(975℃×5hr後)